

東京滝川会だより 12

VOL.125

【会員紹介】

いしばし ひろみ

～理事 石橋 弘美 さん～

会員の皆様いつもありがとうございます。私は「昭和の良き時代」とともに歩んでこれた人生を一生忘れません。社会の活気、人々の強い結びつき、情や助け合いで成り立っていた世の中や近所に触れ、私たちは幸せな時間を過ごしました。未来や明日への期待がたくさん溢れ、豊かになっていく日本や北海道を見ながら生きてこれたことに感謝をしたいです。現在は、また昭和レトロとして昭和のモノを振り返り、昭和歌謡曲も流れる日々がありますことはうれしいですね。

私は昭和30年に滝川市黄金町で生まれました。木造で古い校舎の第二小学校から江陵中学校で学びましたが、親の仕事の関係で東北から東京へと転校しました。しかし、人生を振り返り楽しかった時代は滝川で過ごした15年です。



朝目覚めたら大雪！まずは雪に埋もれた犬を探し、新雪の雪かきをするのが子どもたちの仕事でした。牛乳やヤクルトはシャーベット状になっているから、ストーブのそばにおいて溶かします。冬の朝の日課にも子どもたちは駄々こねることもなく、親たちの手伝いをしたものです。年に一度神社で行われていた伝統行事には、おちごさん姿で参加しました。華やかな着物に真っ白に塗られた白化粧をして近所を練り歩きました。

また、現在のハロウィンに似た行事で七夕にはご近所に提灯を持ちながら、ろうそくとお菓子をもらい歩いたことは忘れられない思い出になっています。『ろうそくだあせえ～だあせえ～よ～だあさないとかっちゃんぞお～♪』の歌を歌いながら近所を訪問する行事は子どもたちにとって楽しみの一つでした。

黄金町3丁目に住宅はたくさんあり、行事は季節ごとにありました。大人たちが計画をし、たくさんいる子どもたちの楽しみをいつも作ってくれていました。炊事遠足や海遠足、公園で紙芝居、定期的にドン！という機械を持ってきて、とうきびやお米と交換でポップコーンを作ってくれました。こうして思い出を語ると何時間もお話できますね。滝川での思い出話をするだけで、人生を楽しめる気がします。そして滝川で生まれ育ったことに感謝したいです。

現在35年目になる会社は一人娘が継いでくれて、私は少しだけ手伝いながら趣味の旅行や温泉巡りを楽しんでいます。この春から16歳の孫は江別にある酪農大学附属高校に行き、寮生活が始まりました。生まれて初めて雪国北海道の冬を過ごせるのを楽しみにしています。私のふるさと北海道でこれからたくさん思い出を作ってほしいと願っています。

東京滝川会という場所で、同じ故郷の思い出を語れる場所や時間を作ってくれている皆様のご尽力には感謝しかありません。これからも事務局の方々をはじめ、会員の皆様とともに滝川会発展のため少しでもお手伝いできたらと思っております。

あなたの近況を会報でご紹介しませんか？

上記のように、会報を通じて皆様の近況や活動情報をご紹介しませんか？

写真とコメントをお寄せいただければ、紙面の枠を活用して順次掲載いたします。

なお、紙面の都合上、内容を要約させていただく場合や、掲載の順番を調整させていただくことがございます。あらかじめご了承ください。



お申し込み方法

・投稿フォーム（QRコード）またはEメールにて写真とコメント（最大200字）をお送りください。